

■北海道（総合）振興局森林室に勤務する林業普及指導員からの情報です

日高地域における第一次産業での地域材利用事例

日高振興局森林室普及課

日高地域は、軽種馬やコンブ漁など第一次産業が盛んなことから、当普及課では地域関係者との地域材利用の検討や、巡回による木材利用の普及啓発等を行い、農林水産業における地域材利用の推進に取り組んできました。その結果、地域の第一次産業における地域材利用が促進されてきましたので、近年の主な木材利用事例を紹介します。

【軽種馬・黒毛和牛産業での事例】

日高地域には多くの軽種馬牧場のほか、近年では黒毛和牛の飼育が盛んになっています。

日高中部森林組合では、軽種馬牧場に欠かせない牧柵を受注生産しており、これまで約1,800mの牧柵を施工し、牧柵の支柱には防腐加工したカラマツ杭材約900本（原木24m³）が利用されています（写真-1）。この防腐加工材は無味無臭なことから、門別競馬場坂路施設でも使用されるなど、利用の場が広がりつつあります。

また、ひだか南森林組合では、黒毛和牛の敷料としてトドマツのおが粉を約2,700m³/月（原木900m³）生産しており、このおが粉は、管内12戸の農家へ供給しているほか、釧路方面にも出荷されています。

【水産業での事例】

日高沿岸で多く見られるコンブ小屋は、かつての木造からプレハブ小屋が主流となっていましたが、住宅見学会等の地域材利用促進の波及により、近年ではスギ・トドマツ板材を使った下見板張りのコンブ小屋が復活してきました。ひだか南森林組合では、受注に応じ地場産のスギやトドマツを利用したコンブ小屋を平成23年度から6棟（板材約74m²/棟）建築しています（写真-2）。



写真-1 カラマツ材防腐加工牧柵



写真-2 スギ材利用のコンブ小屋

スギ材を使用した施工主からは「腐れに強く、赤みのある材色が新鮮で良い」と評判で、車庫や物置にも下見板張りが波及しています。

【エゾシカ被害対策での事例】

日高地域では、エゾシカによる農林業被害が深刻な問題となっています。

特に被害の多いえりも町では、農地のエゾシカ被害防止のため、平成23年度に侵入防止柵を約40kmにわたり設置し、杭材約2,350本（123m³）の地域材を利用しています（写真-3）。

そのほか、ひだか南森林組合では平成23年度からトドマツ間伐材を杭材（径12cm×3.6m）に加工（皮むき、先削り）し、これまで侵入防止柵を7km以上施工し、2,040本（107m³）の地域材を利用しています（写真-4）。



写真-3 えりも町での防止柵施工例

【今後の取組】

当普及課では、これらの地域材利用事例を取りまとめたパンフレットを作成し、地域の農林水産業関係者等に普及啓発を図るとともに、新たな需要開拓等、今後さらなる地域材利用を推進することとしています。



写真-4 加工された杭材